

しろね
河川伝統技術名称： **白根大凧合戦**
分 類：行事・祭事 年 代：18世紀代
河 川 名：信濃川支川 中ノ口川
都道府県／地先：新潟県／白根町



白根大凧合戦の様子

資料： <http://www.iris.dti.ne.jp/~j12/tako.htm> <http://toki.ed.niigata-u.ac.jp/~toda/tako/tako.htm>

(概要)白根大凧合戦の由来 中ノ口川は16世紀末に掘られた川で、度々氾濫して人々を苦しめた。代代の村長は、堤防の改修に力を注いだ。川を挟み対峙する東白根・西白根は治水を巡り争いが絶えなかった。元禄年間から40余年に及ぶ堤防の改修工事が、元文2年(1737年)5月に竣工した。その頃領主の溝口家では、男児出産の祝い事があり、東白根の里正、神山忠兵衛は新発田城に招かれた。城内には30枚張りの凧が飾られ、忠兵衛はそれを拝領して白根に帰り、若者に手伝わせ、できたばかりの堤防上で揚げた。凧は対岸の農夫の又右衛門の屋根に墜落して、損傷を与えた。西白根は村上藩、東白根は新発田藩で、両地は日ごろから激しく対立し、特に又右衛門は治水のことで東白根に深い怨みを互いにもっていた。早速又右衛門は大凧を作り、忠兵衛の屋根をめがけてたたきつけたから、凧合戦が起こったと伝えられている。